



かかやく子ども

～自立と共生の礎を培い、今と未来を豊かで創造的に生きる子どもを育てる学校～

もっとチャレンジ!～かんがえる子ども すんでする子ども 共に生きる子ども～ 授業づくりのこと 最近の子どもたちのこと

みんなでつくった運動会!当日に至るまでにはインフルエンザ禍などがありました。子どもたちはみんな立派にやり遂げました。

ご声援、ご協力をいただいたみなさまには、お礼申し上げます。ありがとうございました。

《本年度の運動会から》



たびたびお伝えしているとおり、本校では算数を窓口(すうが)に授業改善(じゅぎょうかいぜん)に取り組んでいます。

9月にも研究授業(けんきゅうじゅぎょう)を行いました。

一つの学級(がくきゅう)の授業を全教員(ぜんきょういん)で参観(さんかん)し、指導方法(しどうほう)についての実践(じっせん)的な研究(けんきゅう)をしていくのです。

その日は、2年生(にねんせい)の子どもたちに「繰り上がり(くりあがり)のあるたし算(たしざん)の筆算(ひつざん)方法(かんぽう)」をみつけさせようとした授業(じゅぎょう)でした。

一の位(いちのゝゐ)と十の位(じゅうのゝゐ)の2か所(かしょ)で繰り上がり(くりあがり)をしなければならぬ(なければならぬ)なかなか(なかなか)難しい(むずかしい)内容(ないよう)です。

それでも、子どもたちはそれまでの学習(がくしゅう)を手(て)がかり(てがかり)に、ペア(ペア)やグループ(ぐるーぷ)で考(かんが)えて、その後(のち)、全員(ぜんいん)で交(こう)流(りゅう)していきま(い)した。

事後(じご)の研究(けんきゅう)協(きょう)議(ぎ)会(かい)では、そのとき(とき)のこ(こ)とが取(と)り上(あ)げられま(ま)した。

子ども(こ)たちが考(かんが)えを交(こう)流(りゅう)する際(さい)に、書(か)いた文(ぶん)をよ(よ)み上(あ)げるに留(とど)まっていた(て)い(い)たの(の)ではな(な)い(い)かとい(い)う(う)の(の)です(す)。

確(た)かに、書(か)いたもの(もの)をよ(よ)むだけ(だけ)でなく(なく)、自(じ)分(ぶん)の言(こと)ばに(に)して発(はっ)表(ひょう)する(する)のが苦(くる)手(て)とい(い)う(う)のは、本(ほん)校(こう)のこ(こ)ども(ども)た(た)ち(ち)の課(か)題(だい)の(の)一つ(いつ)です(す)。

さて、二(ふた)日(ひ)ほど経(た)って、2(に)年(ねん)の担(たん)任(にん)が教(おし)えてくれ(くれ)ま(ま)した。

「(協(きょう)議(ぎ)会(かい)で(で)の意(い)見(けん)を参(さん)考(こう)に(に)して)書(か)いたと(と)ころ(ころ)を(を)手(て)で隠(かく)して発(はっ)表(ひょう)する(する)よ(よ)う(う)に促(うなが)して(して)み(み)たら(たら)、全(ぜん)員(いん)が(が)ち(ち)ゃん(ん)と説(せつ)明(めい)でき(き)た(た)ん(ん)です(す)!」

書(か)いたもの(もの)から一旦(いったん)離(はな)れ(れ)さ(さ)せてみ(み)る(る)。それ(それ)だ(だ)け(け)のこ(こ)と(と)で、子(こ)ども(ども)の考(かんが)え(え)や表(ひょう)現(げん)が確(た)かな(かな)もの(もの)に近(ちか)づ(づ)いた(いた)とい(い)う(う)の(の)です(す)。

私(わ)たちは、こ(こ)のよ(よ)う(う)に(に)してよ(よ)りよ(よ)い授(じゅ)業(ぎょう)をつ(つ)くろ(ろ)う(う)と(と)して(して)い(い)ま(ま)す(す)。

※ ※ ※

海(かい)外(がい)にお(お)られ(れ)る現(げん)地(ち)の先(せん)生(せい)と(と)のオ(オン)ラ(ライン)に(に)よ(よ)る英(えい)会(かい)話(わ)に(に)初(はじめて)臨(りん)んだ(だ)6(ろく)年(ねん)生(せい)は、最(さい)初(はつ)の緊(きん)張(ちやう)が解(と)けてい(い)くと、学(がく)級(きゅう)全(ぜん)体(たい)で生(いき)き(き)し(し)た(た)コ(コ)ミュ(ニ)ケー(シ)ョ(ン)を(を)と(と)っ(つ)てい(い)き(き)ま(ま)した(した)。

各(かく)校(こう)を回(まわ)られ(れ)るア(アシ)ス(タ)ン(ト)の(の)方(かた)が(が)と(と)ても感(かん)心(しん)して、よ(よ)ろこ(こ)ん(ん)で(で)くだ(くだ)さい(さい)ま(ま)した(した)。

外(がい)部(ぶ)の(の)方(かた)から教(おし)えて(て)い(い)た(た)だ(だ)い(い)て、今(いま)まで(で)気(き)づ(づ)か(か)な(な)か(か)った(た)本(ほん)校(こう)の(の)こ(こ)ども(ども)た(た)ち(ち)の(の)新(あたら)しい(しい)よ(よ)さ(さ)を知(し)った(た)よ(よ)う(う)に思(おも)い(い)ま(ま)す(す)。

※ ※ ※

主(しゅ)催(さい)され(れ)る方(かた)ら(ら)の(の)お願(ねが)い(い)に(に)応(こた)えて(て)2(にん)人(にん)近(ちか)く(く)の(の)5(ご)年(ねん)生(せい)が(が)学(がく)区(く)の(の)敬(けい)老(らう)会(かい)に(に)出(しゅつ)演(えん)しま(ま)した(した)。

何(なん)度(ど)も練(れん)習(しゅう)を重(かさ)ね(ね)、本(ほん)番(ばん)は(は)見(み)事(こと)な(な)もの(もの)で(で)した(した)が、それ(それ)以(い)前(ぜん)に(に)よ(よ)い(い)と感(かん)じ(じ)た(た)の(の)は、そ(そ)の(の)よ(よ)う(う)な(な)機(き)会(かい)を(を)生(ま)か(か)して(して)み(み)よ(よ)う(う)と(と)す(す)姿(すがた)に(に)対(たい)して(して)です(す)。

社(しゃ)会(かい)に(に)は(は)た(た)ら(ら)き(き)か(か)ける(ける)力(ちから)、社(しゃ)会(かい)を(を)変(か)えて(て)い(い)く(く)(かも(も)し(し)れ(れ)な(な)い)力(ちから)は、子(こ)ども(ども)に(に)も備(そな)わ(わ)って(て)い(い)ま(ま)す(す)。そ(そ)して、現(げん)代(だい)の(の)社(しゃ)会(かい)で(で)あ(あ)れば(ば)、今(いま)後(ご)ま(ま)す(す)そ(そ)の(の)力(ちから)を(を)必(ひつ)要(よう)と(と)さ(さ)れる(れる)場(ま)面(めん)が、子(こ)ども(ども)た(た)ち(ち)の(の)前(まへ)に(に)現(あら)わ(わ)れて(て)く(く)る(る)で(で)し(し)ょう(ょう)。

それ(それ)は、子(こ)ども(ども)た(た)ち(ち)自(じ)身(しん)を(を)大(おお)き(き)く育(そだ)て(て)る(る)機(き)会(かい)に(に)も(も)な(な)る(る)と思(おも)っ(つ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。(清(しみず)水(みづ)康(や)行(ぎょう))

人はなにものかであるためには…

購読する新聞に『人生相談』のコーナーがあります。人にはいろいろな悩みや苦しみがあり、それらの多くは私とどこかで無縁ではありません。そして、毎回、教えられている…というより、私自身が救われている気がします。

9月4日の紙面(毎日新聞)に載っていたのは、長い間、家から出ることができないという女性からの投稿でした。いろんなことを嫌い、でも、それ以上にそんな自分のことを嫌悪するのがその方の深い苦しみのだとわかります。

それに対して、明治学院大学教授であり、「さようなら ギャングたち」などを書かれた作家である高橋源一郎氏が、自身もそのような時期があったという告白と専門医にかかることも考えられるという助言をされたうえで、次のようなことを書かれていました。

“自らが「ひきこもり」であった思想家、吉本隆明さんは、「人はなにものかであるためには、孤独に自分と向き合う『ひとりの時間』を必要とする。けれども、社会が人に与えるのは、こまぎれの時間だけで、考える時間を与えようとはしない。「ひきこもり」の時間は、人がいのちがけで獲得した『成熟』のための時間なのだ…」と述べておられます。”

“あなたの家から出られなかった長い時間は、あなたにとって必要な時間であったのであり、自分を否定する必要はありません。”

※ ※ ※

そういえば、かつて一緒に働いたカウンセラーの方が、「人は意味のないことをしない」とよく仰っていたことを思い出します。「人にとって無駄なことはなに一つない」と仰っていたことも…。

大阪人間科学大学教授などを歴任された精神医の服部祥子氏は、「生きる火種さえ残されていれば、人は必ずそれを大きくすることができる」と話しておられました。

※ ※ ※

新聞に投稿をされた女性は、「今、書かないとだめだと思った」と書いておられました。

その方は、火種を絶やさずにじっと保ってこられたのでしょう。そして、その火を長い時間をかけて、少しずつ少しずつ大きくしてこられたのだと思います。

「今、書かないと…」 そう思われた時点で、再び動き出す準備はもう最終の段階に来ているのかもしれません。

私は、お会いしたことのないその女性へも、同じ悩みに苦しむ人々へも、そして、それがけて他人事ではない自分に対しても、祈るようにエールをおくりたいのです。

(清水康行)

「ともに取り組もう SNSとのお・つ・き・あ・い」 ～三世代交流参観のご案内～

子どもたちにかかわる近年の問題の一つとなっている“SNS問題”…。

10月17日(火)の三世代交流参観でも取り上げたいと考えています。

子どもたちのために、ぜひお越しください。



老西小フラワークラブ始動!

学校からの呼びかけに、最初3人の保護者の方が応えてくださった老西小フラワークラブ…。先日、集まりがあったのですが、人数が増えているではありませんか!自分たちでできること、楽しめることを話し合っていたようです。これから少しずつ活動が広まっていけばよいと思います。

老西小ミニコンサートを開催します。

これも老西小コミュニティ・スクールの取り組みの一つとしてミニコンサートを開催します。

昨年度のピアノデュオが初めての試みだったのですが、本年度はなんと5組のコンサートになりました。

各ご家庭・地域のみなさまには既に別途ご案内しています。昼休みの短い時間ですが、よろしければ、子どもたちと一緒に聴きになりませんか。

